

## 議 事 録

会議名	平成 29 年度第 2 回理事会		
No.	理事会 - 019	文責	根本
開催日時	平成 30 年 1 月 14 日 (日) 15:00~17:00	開催場所	マイスペース新宿 3 丁目 ビッグスビル店 4 号室
出席者 【敬称略】	15 期 荒井 18 期 関、中谷、岸田 20 期 川田 30 期 野久尾、根本 【監事】 25 期 宮下 【議長・副議長】 16 期 川上 【常任顧問】 1 期 野村、7 期 丸山		
会議の目的	定時理事会		

## 内容

## 【理事会開催に必要な定足数の確認】

理事総数 13 名中 8 名の出席があり、理事会開催に必要な過半数出席の要件は満たしている。

## 【議事】

## 1. 荒井理事長より現況について以下のとおり報告があった。

- ・昨年 7 月の母校 70 周年記念式典は関係者の努力の甲斐ある意義深いものであった。続いて開催された祝宴も OB 恩師のほか現役の先生方にもご出席いただき盛会であった。
- ・70 周年記念誌の編集については、野久尾・根本各理事による恩師インタビューの収録が終わり、卒業生に依頼した原稿も間もなく揃う状況である。
- ・同窓会報は次号で 5 号を数えるが最近では寄稿希望者が出るようになった。原稿は全て揃ったので一両日中に大槻デザインに入稿し今月中に初稿が上がる。2 月末に発行し、母校卒業生 (69 期) に記念品の印鑑と共に渡す予定である。同窓会報送付先はこれまでに約 3,100 件を数えているが、間もなく 3,200 ~ 3,300 件に達する。
- ・母校の石井健介元副校長 (23 期) が理事就任を承諾してくださった。母校との連携強化が期待される。
- ・母校は今年 4 月から 1 学年 3 クラス体制 (40 名×3 クラス=120 名) となる (議事録作成者注: のちに 35 名×4 クラス=140 名と判明)。若竹会運営費が少なくなるので今年 4 月から会費を増額することが検討されている。大学の予算が厳しくなる一方、母校の設備は老朽化しており、冷暖房装置の更新に多額の費用が見込まれている。

以上の報告を受け、母校への財政援助について、出席者から大要以下の意見が出された。

- ・同窓会として大学の理事会と話し合いの場を持ち、PFI (民間資金やノウハウを活用して公共サービスを提供する手法) の提案などをすることを検討すべきである。また、各附属校の同窓会が連携して大学と向き合うことも考えられる。
- ・大学との向き合いに同窓会が直接関与すべきか否かは議論の余地がある。
- ・他校を参考にして寄付金を組織的に集める仕組み作りを検討すべきである。

## 2. 関副理事長より当期の予算執行状況について、概ね予定どおり進捗している旨報告があった。

以上の報告を受け、寄付金の募集について、出席者から大要以下の意見が出された。

- ・同窓会としては人数が減少する 72 期が卒業する年度以降の収入減を見越した対策を考える必要がある。
- ・70 周年記念誌が発行されたら、社会的に影響のある卒業生に持参して母校の現況を訴えてはどうか。
- ・同窓会報に同封する寄付金の依頼文に生徒数の減少や設備の老朽化を記載してはどうか。
- ・寄付金の一口の金額を現行の 1,000 円から増額することも考えられるが、慎重な検討が必要だ。

3. 平成30年度定時常任幹事会開催について以下のとおり決定した。

日時： 平成30年6月16日（土）14時00分～16時00分（議事録作成者注：のち13時30分～15時30分に変更）

場所： 東京学芸大学構内 辟雍会館2階（のち第2むさしのホール2Fに変更）

4. 関副理事長より理事・常任幹事の異動見込みについて以下のとおり報告があった。

- ・18期の岸田れい子さん・柳本妻美さんから理事退任の意向が寄せられている。
- ・18期の高岡和子さんから常任幹事退任の意向が寄せられている。
- ・1期の常任幹事、浜野喜代子さん・横山和子さんは常任幹事会等への出席が難しそうなので、別の方に就任を依頼できないか検討中である。
- ・20期、21期、25期、34期、41期の方々に依頼を検討（のち25期の男性2名より承諾、34期の方は固辞、20期、21期、41期はまだ依頼していない）。

5. 川田副理事長より同窓会ホームページの状況について以下のとおり報告があった。

- ・同窓会ホームページの各機能は、昨年の夏頃に同窓会の現況や要請に見合った内容へと改修がなされた。これをもってホームページの機能改善を使命とした、現在の理事会ホームページ委員会は所期の目的を達成したと考えている。
- ・今後は掲載内容の編集体制を整備することが求められている。

以上